

令和 3（2021）年度自己点検評価・報告書

札幌国際大学自己点検・評価委員会

はじめに

平成 30 年（2018）年からは認証評価第 3 クールに評価基準が移行するに伴い、年度毎に主となる基準を設定し自己点検・評価を進めていくことになった。

令和 4(2022)年度、本学は 2 学科（現代文化学科、国際観光学科）を募集停止し新学科（国際教養学科）を設置、また、すべての学部、学科、専攻で新カリキュラムを導入することになっている。そのため、全学的に教育課程の大幅な見直しをおこなった。したがって今回の自己点検・評価報告は、教育課程を中心とした基準 3 に基づいた点検・評価を実施した。

1. 自己点検・評価の実施予定

- ◇令和元（2019）年度：基準 1・2（今回） ※中期目標・計画策定開始
- ◇令和 2（2020）年度：基準 2 を中心に
- ◇令和 3（2021）年度：基準 3 を中心に ※今年度
- ◇令和 4（2022）年度：全ての基準（ただし、基準 5（経営・管理と財務）を除く）
- ◇令和 5（2023）年度：基準 1～6 の全て（認証評価受審用）

2. 第 3 クールの自己点検・評価の具体的な方法

第 3 クールは第 2 クールと異なり、評価基準項目が増えている。特に「内部質保証」に関しては独立した基準として位置づけられ、大学による自律的な点検と評価が求められている。またこれまでも設定されていた基準項目に関しても、基準のカテゴリーが変わったり、内容に加除修正が伴ったりしており、改めてこれまでの自己点検・評価の方法をひとつひとつ丁寧に確認しながら進めていく必要がある。

そこで、次回の認証評価の受審までの間の自己点検・評価は、基準を絞り込んだ上で評価基準のねらいもよく理解するために、細部にわたり点検・評価する。

◇自己点検・評価の流れ

- ①大学機関別認証評価の受審基準の項目について、基準 1 から順に評価の視点と自己判定の留意点を把握し、本学において該当する部署や規程があるかのつながりを確認する。
- ②本学に評価基準で述べられている部署や規程がない場合は、速やかに整備する。
- ③高等教育評価機構の評価基準に沿って、1 つの基準を自己点検・評価を実施する。
- ④受審年度の前年度前までに、全基準について自己点検・評価を終える。

3. 日本高等教育評価機構の評価基準に沿った自己点検・評価

基準 3 教育課程

3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定

3-1-① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知

3-1-② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知

3-1-③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用

(1) 3-1 の自己判定

基準項目 3-1 を満たしている。

(2) 3-1 の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

3-1-① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知

札幌国際大学（以下、「本学」と表記）は、『学則』第 1 条で教育目的を定め、この教育目的を具現化するためにディプロマ・ポリシーを策定してきたが、令和 4 年度からの学科再編や新カリキュラムの導入にあわせ、学則第 1 条の教育目的をもとに「学力の 3 要素」を踏まえた上で、ディプロマ・ポリシーの見直しをおこなった。

また、札幌国際大学大学院（以下、「本大学院」と表記）も、『大学院学則』第 1 条で教育目的を定め、これに基づき大学院全体と各研究科・課程がそれぞれディプロマ・ポリシーを策定している。

[大学]

【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力）

(DP1)各学科・専攻の専門分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。

【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性）

(DP2)資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性）

(DP3)現状を分析し、課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的にその解決に取り組むことができる。

【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心）

(DP4)他者との円滑な関係を築く力を有し、目標達成のために協調して物事に取り組むことができる。

【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲）

(DP5)自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。

【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心）

(DP6)地域社会に貢献する姿勢を身に付け、その意欲を有する。

各学科は、学部全体のディプロマ・ポリシーに対応するよう各学科・専攻（令和 4 年（2022）年度より設置の国際教養学科を含む）のディプロマ・ポリシーを下記のとおり策定した。

◇人文学部現代文化学科（令和4(2022)年度より募集停止）

【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力）

(DP1)自文化と異文化を理解し発信することに関する知識・技能を修得し、活用することができる。

【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性）

(DP2) 歴史・文化・宗教・習慣に関する資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性）

(DP3) 歴史・文化・コミュニケーションについて、文化学の観点から分析し、目的や課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的に課題解決に取り組むことができる。

【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心）

(DP4)他者との円滑な関係を築く力を有し、目標達成のために協調して物事に取り組むことができる。

【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲）

(DP5)自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。

【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心）

(DP6)グローバルな視点を持ち、地域社会に貢献する姿勢を身につけ、その意欲を有する。

◇人文学部国際教養学科（令和4(2022)年度より設置）

【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力）

(DP1)多言語コミュニケーション、地域づくり、グローバルビジネスの各分野において、社会、文化、言語、歴史、産業についての知識・技能を修得し、活用することができる。

【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性）

(DP2)他者の文化や価値観を尊重し、外国語や情報通信技術を適切に活用し対話することができる。

【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性）

(DP3)適切な情報収集と客観的な分析から課題を明らかにし、具体的な解決策を考え出すことができる。

【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心）

(DP4)対話を通して多様な人々と相互理解を深め、共通の目標に向かって協力して活動することができる。

【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲）

(DP5)変化する社会に広く関心を持ち、新たな知識を意欲的に学び続けることができる。

【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心）

(DP6)多文化共生社会の実現と発展に貢献するため、積極的に行動する意欲を有する。

◇人文学部心理学科（臨床心理専攻）

【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力）

(DP1)心理学領域及び臨床心理学領域の基礎的な知識・技能を修得し、活用することができる。

【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性）

(DP2)心理学的な知識・技能に基づいて他者を理解し、相手や状況に応じて自らの考えを伝え、建設的な議論ができる。

【課題を発見し、解決する力】(技能・思考力・判断力・表現力・主体性)

(DP3)心理学的観点を踏まえて現状を客観的に分析し、課題を明らかにした上で、見通しを立ててその解決に取り組むことができる。

【多様性の理解と協働する力】(知識・主体性・多様性・協働性・関心)

(DP4)様々な人の立場や背景を理解した上で円滑な関係を構築し、協働して物事に取り組むことができる。

【能動的に学び続ける力】(思考力・主体性・意欲)

(DP5)幅広い教養に基づいて広く社会に関心を持ち、継続的に知識・経験を積み上げることができる。

【社会に貢献する姿勢】(主体性・多様性・協働性・意欲・関心)

(DP6)地域社会に関する問題を心理学的な観点から捉え、他者と協働し地域に貢献する意欲を有する。

◇人文学部心理学科(子ども心理専攻)

【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)

(DP1)心理学領域及び幼児教育・保育領域に関する知識・技能を修得し、活用することができる。

【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)

(DP2)心理学を基盤とし、幼児教育や保育、福祉等の現場において、利用者や関係者の理解に努め、自らの考えを適切に伝えることができる。

【課題を発見し、解決する力】(技能・思考力・判断力・表現力・主体性)

(DP3)幼児教育・保育の現状を分析し、目的や課題を明らかにした上で、適切な手段で計画的に課題解決に取り組むことができる。

【多様性の理解と協働する力】(知識・主体性・多様性・協働性・関心)

(DP4)幼児教育・保育の場において、年齢、性別、国籍、障がいの有無などの多様性を理解し、適切な対応をすることができる。

【能動的に学び続ける力】(思考力・主体性・意欲)

(DP5)教育・保育の分野において最新の情報を得る努力を怠らず、より良い教育・保育の在り方を検討し、実践、評価、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。

【社会に貢献する姿勢】(主体性・多様性・協働性・意欲・関心)

(DP6)理想の保育を求め、研究・実践に携わるリーダーとしての自覚を持ち、地域社会に貢献する姿勢を身に付け、その意欲を有する。

◇観光学部観光ビジネス学科

【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)

(DP1)観光ビジネスに関する専門知識・技能を修得し活用することができる。

【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)

(DP2)観光ビジネスに関する資料の内容理解・作成・発表ができ、相手に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

【課題を発見し、解決する力】(技能・思考力・判断力・表現力・主体性)

(DP3)観光ビジネスや地域社会の現状を把握し、課題を分析し、適切な手段で計画的に課題解決に取り組むことができる。

【多様性の理解と協働する力】(知識・主体性・多様性・協働性・関心)

(DP4)言語や文化等が異なる多様な人々と円滑な関係を築く力を有し、目標達成のために協調して物事に取り組むことができる。

【能動的に学び続ける力】(思考力・主体性・意欲)

(DP5)自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。

【社会に貢献する姿勢】(主体性・多様性・協働性・意欲・関心)

(DP6)地域社会に貢献する活動に自発的に取り組む意欲を有する。

◇観光学部観光国際観光学科（令和4(2022)年度より募集停止）

【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)

(DP1)国際観光分野に関する知識・技能を修得し、活用することができる。

【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)

(DP2)資料やレポート等の内容理解・作成・発表ができ、相手や状況に合わせて適切に自らの考えを伝えることができる。

【課題を発見し、解決する力】(技能・思考力・判断力・表現力・主体性)

(DP3)国内外の観光を取り巻く現状を把握し、課題を発見し、根拠に基づき分析することで、改善や解決のための方法をまとめることができる。

【多様性の理解と協働する力】(知識・主体性・多様性・協働性・関心)

(DP4)他者との円滑な関係を築く力を有し、目標達成のために協調して物事に取り組むことができる。

【能動的に学び続ける力】(思考力・主体性・意欲)

(DP5)国際観光振興や町づくりに関して、自ら計画し、行動し、評価し、改善を図りながら継続的に学ぶことができる。

【社会に貢献する姿勢】(主体性・多様性・協働性・意欲・関心)

(DP6)観光分野による地域社会活動に貢献する姿勢を身につけ、その意欲を有する。

◇スポーツ人間学部スポーツビジネス学科

【専門知識・技能を活用する力】(知識・技能・判断力)

(DP1)情報を収集、整理、活用することができる。

【コミュニケーション能力】(思考力・表現力・主体性・多様性・協働性)

(DP2)人間関係やチームワークを形成するために、自分の意見をわかりやすく伝えることができる。

【課題を発見し、解決する力】(技能・思考力・判断力・表現力・主体性)

(DP3)現状を分析し、課題を明らかにするとともに、その解決に取り組むことができる。

【多様性の理解と協働する力】(知識・主体性・多様性・協働性・関心)

(DP4)地域住民や多様な関係者と相互理解を深め、目標に向かって合意形成に取り組むことができる。

【能動的に学び続ける力】(思考力・主体性・意欲)

(DP5)計画・行動・評価・改善を図りながら、知識・技術を更新し、継続的に学ぶことができる。

【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心）

(DP6)地域に対する高い関心を持ち、理解を深め、社会に貢献することができる。

◇スポーツ人間学部スポーツ指導学科

【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力）

(DP1)専門知識を科学的視点に基づいて理解するとともに、各種の運動・スポーツならびにその指導を行うための技能に習熟し、それらを活用することができる。

【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性）

(DP2)集団において相互理解を深め、問題や課題について情報を共有し、自らの考えを伝えることができる。

【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性）

(DP3)科学的視点に基づいた分析・検討により課題を明らかにし、合理的な手段を用いてその解決に取り組むことができる。

【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心）

(DP4)スポーツ・インテグリティに対する理解に基づき、目標達成のために他者と協働して課題に取り組むことができる。

【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲）

(DP5)信頼性と妥当性の高い情報の収集を通じて自らの計画・行動を評価し、改善を図りながら能動的に学ぶことができる。

【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲・関心）

(DP6)スポーツの振興ならびに生涯スポーツの実現に向けた持続可能な取り組みを通じて、地域社会に貢献しようとする意欲を有する。

[大学院]

本大学院のディプロマ・ポリシーは、『大学院学則』第1条に定める教育研究目的を踏まえ、以下の通り策定している。

◇観光学研究科観光学専攻（修士：観光学）

①観光産業の発展および観光を通じた地域づくりの実践に資する高度な専門的理論および応用知識

②わが国の観光産業および観光を通じた地域づくりに貢献し得るコミュニケーション能力

③高度な専門職業人として要求される汎用技能

◇心理学研究科臨床心理専攻（修士：臨床心理）

①臨床心理に関する高度な知識と技能

②臨床心理学的研究法と観察事実の分析法

③自己の意見や思考を論理的に伝える論文作成能力と発表の技能

④現代社会の臨床心理的課題の理解

◇スポーツ健康指導研究科スポーツ健康指導専攻（修士：スポーツ健康指導）

①スポーツ健康指導者に不可欠な専門的知識

②スポーツ健康指導者としての指導・実践能力と人間形成に関わる思考や経験知

③子どもおよび高齢者を対象としたスポーツ健康指導の実践能力

④研究テーマを考え、研究を行う一連の過程で培われる能力

これらのディプロマ・ポリシーは、本学ホームページやパンフレット等の各種資料で周知している。また、これまでも WEB シラバスにおいて各科目とディプロマ・ポリシーとの関連を記述していたが、次年度からはディプロマ・ポリシーのどの項目と特に深く関わるのかをより明確に明示するよう決定した。

3-1-② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知

1)単位認定基準

学部では、単位認定について、『学則』第 9 条「授業科目」、第 10 条「所要単位の取得」、第 11 条「単位」、第 13 条「単位の授与」で定めている。また、『学則』第 17 条「本学の他学部又は他学科等における授業科目の履修等」、第 18 条「他の大学又は短期大学における授業科目の履修等」、第 19 条「大学以外の教育施設等における学修」、第 20 条「入学前の既修得単位等の認定」及び第 21 条「他学部・学科及び本学以外の学修等による単位認定に関する事項」において既修得単位の上限を定めているほか、WEB シラバス上で成績評価基準と方法を示している。この基準に従って各科目の到達目標を達成したか否かを判定し、単位を認定している。

成績評価及び単位認定に関する基準は【表 1】のとおりである。なお、単位取得に必要な授業出席日数は、各科目共に実施時間数の 3 分の 2 以上としている。

【表 1】成績評価及び単位認定基準(大学・大学院共用)

単位	成績評価	総合点	判定内容	GP
合格 (認定)	優+	90-100	特に優れた成績	4.0
	優	80-89	優れた成績	3.0
	良	70-79	妥当と認められる成績	2.0
	可	60-69	合格と認められる最低限の成績	1.0
	認定	-	※	対象外
不合格 (不認定)	不可	0-59	不合格	0

※『インターンシップ』『日本語表現入門』については、成績評価を「認定」「不可」としている。

大学院では、単位認定について『大学院学則』第 27 条「単位の授与」で定めている。なお、第 26 条「他の大学院における授業科目の履修」第 26 条の 2「入学前の既修得単位等の認定」において、既修得単位等の上限を定めている。

また、科目毎の成績評価に対し 0.0～4.0 のグレードポイント(GP)をつけ、1 単位あたりの平均成績評価点を GPA(Grade Point Average)として算出している。GPA は修学指導の材料、成績不振の判定、履修条件、卒業時の表彰、退学勧告、奨学生への推薦など、卒業までの様々な選考の指標となっており、学生が学修に取り組む際の目安になっている。

2) 進級基準

本学に進級制度はないが、学修支援プログラムで「学期の GPA が 1.0 未満又は総修得単位数が著しく少ない学生」を抽出し、学生、保護者、アドバイザー教員、教務課職員で面談を行い、今後の学修計画についての確認を行っている。また、成績不振が 3 期続いた場合、退学勧告をおこなうこととしている。

なお、教務部では GPA を学生自身が成績把握のため活用できることをめざし、学修ポートフォリオの導入を検討した。令和 4 年度 4 月からの導入をめざしている。学修ポートフォリオについては運用のためのアセスメントが今後、必要である。

3) 卒業認定基準

学部では、『学則』第 38 条「卒業の要件」及び第 39 条「学位の授与」で、本学に 4 年以上在学し、所定の授業科目の単位領域と単位数（合計 124 単位）を修得することを卒業認定基準として定めている。学位は『札幌国際大学学位規則』により、各学部学科・専攻に応じた「学士」の学位を与えている。

4) 修了認定基準

大学院では、『大学院学則』第 28 条「修了の要件」で、本大学院に 2 年以上在学し、観光学研究科では授業科目を 30 単位以上、心理学研究科では 38 単位以上、スポーツ健康指導研究科では 30 単位以上をそれぞれ修得し、かつ、修士論文または特定の課題についての研究の成果の審査及び試験等に合格した者に対して修士課程の修了を認めている。学位は『札幌国際大学学位規則』により、各研究科に応じた「修士」の学位を与えている。

なお、学位論文の審査方法と審査基準に関しては各研究科で、『課題研究指導審査要領』に明記している。

5) 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の周知

『学則』『大学院学則』、3 ポリシーに加えて、単位認定基準、卒業認定基準、修了認定基準等については、学生に配布する『スタディガイド』（履修要綱）に記載し、また本学ホームページでも公開している。学期開始時に全学部学科、研究科の学年別にオリエンテーションを設定し、そこでの履修指導の際にも『スタディガイド』を活用して説明をしている。

さらに、1 年次入学生に関しては大学の授業への適応を円滑化し授業に対する構えをつくることと、本学での学びの基盤を身につけるために、全学共通教育科目で「学びの技法Ⅰ」「学びの技法Ⅱ」を必修科目に設定し、履修や進級、卒業、終了の基準等の説明を徹底している。

3-1-③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用

本学は前項 3-1-②で示したように、単位認定基準、卒業認定基準、修了認定基準を明確に定めている。これらを厳正に適用するために、単位認定基準についてはシラバ

スに明記している。また、シラバス作成は、科目担当者間で作成内容・表記方法等が不統一にならないよう『シラバス作成要領』に則って各科目のシラバスを作成している。シラバスに「到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連」や単位認定基準等が記載されているかについては、学科と教務課で点検した上で公表している。

また、学生はシラバスに明記された単位認定基準に基づいた、単位認定が行われていない場合は、「成績評価確認願」により大学に対して不服の申し立てができる制度も導入している。

卒業認定及び大学院の修了認定については、『学則』『大学院学則』等に定める卒業・修了要件と、各学科・研究科のディプロマ・ポリシーに基づき、教務課で判定資料を作成し各学科等に提供し精査を行った上で、教授会に諮り学長が教授会の意見を参考にした上で決定している。

(3)3-1 の改善・向上方策(将来計画)

令和3年度は、各学部・学科が3ポリシーの見直しをおこなった。このうちディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを改定し、公表した。なお、アドミッション・ポリシーについてもほぼ検討を終えており、令和4年度中の改定を予定している。

一方で大学院の3ポリシーについてはまだ見直し作業に入れていない。

3-2. 教育課程及び教授方法

3-2-① カリキュラム・ポリシーの策定と周知

3-2-② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性

3-2-③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成

3-2-④ 教養教育の実施

3-2-⑤ 教授方法の工夫・開発と効果的な実施

(1)3-2 の自己判定

基準項目3-2を満たしている。

(2)3-2 の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

3-2-① カリキュラム・ポリシーの策定と周知

本学はかねてより、教育課程編成の基準としてカリキュラム・ポリシーを策定し運用してきた。このたび、「学力の3要素」を踏まえたうえで学則第1条に示す教育目的を達成するため、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの見直しをおこなった。

カリキュラム・ポリシーについては、各学部、学科の学びの特徴と学習内容を踏まえ、ディプロマ・ポリシーに定める知識・技能の修得を実現するために必要な教育内容、教育方法、教育評価についての方針を定めた。これらは本学ホームページに掲載しているほか、キャンパスガイドに明記し、周知することとしている。

また、大学院についてもディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラム・ポリシーを策定、周知している。

[大学]

札幌国際大学は、学生が卒業認定・学位授与の方式(ディプロマ・ポリシー)で示した資質・能力を身に付けることができるように、以下の方針に基づき教育課程を編成する。

(CP1)【初年次教育】

高等学校から大学への円滑な移行を図るため、能動的に学び続ける力を身に付けることができるように、全学共通教科科目として初年次教育科目を配置する。

(CP2)【教養教育】

幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するため、全学共通教育科目として人文、社会分野を中心に教養教育科目を配置する。

(CP3)【専門教育】

専門教育において、各学科・専攻のディプロマ・ポリシーに基づき専門性を身に付けることができるように、順次性のある体系的な科目配置を行う。

(CP4)【教育方法】

コミュニケーション能力や他者と協働する力の向上のため、PBL やグループワーク、フィールドワーク等のアクティブ・ラーニング型の科目を配置し、主体的・対話的で深い学びを実現する。 ※PBL: Problem Based Learning

(CP5)【教育方法・評価方法】

キャップ制により十分な学修時間を確保し、授業時間外の学習を促すことで単位の実質化を図るとともに、明確で客観的な評価基準に基づく厳格な成績評価を実施する。

[大学院]

札幌国際大学大学院は、建学の礎に則り、専門領域における学術理論および応用に関して教授研究しその深奥を究め、高度専門職業人としての実践能力を身に付け、社会・文化の進展に寄与することを目的としている。(大学院学則第1条)

卒業認定・学位授与の方針に示す自由、自立、自省の姿勢、地域社会、国際社会への貢献姿勢、高度な知識、技能、実践能力を身に付けた高度専門職業人を育成するため、各研究科においてこれらを達成するための教育課程を編成し実施する。

(CP1)教育課程を通じて自由、自立、自省の姿勢を醸成する。

配置されている授業を通じての深い学識の修得、様々な学術分野の研究蓄積に対する接近を促し、思考力、判断力の育成に努める。

(CP2)演習科目等を通じて地域社会等への貢献姿勢を醸成する。

自己の思考、判断の妥当性、信頼性を確認するため、地域社会における実践場面を提供する。

(CP3)各専門領域の講義、演習、実習等を適切に組み合わせる。

専門分野に関する深い学識を修得するため、体系的に講義、演習、実習等の授業を配置し、研究科の教育目的に沿った編成となっている。

(CP4)各専門領域において高度な実践能力を養うため地域社会等との協同を深める。

専門分野においては地域社会等において実践的考察を行う機会を提供しているが、こうした機会における実践的考察は地域社会等の人たちの協力の下で行われるため、

協同の構えを備え、地域社会等との好ましい関係を形成することが不可欠となる。

3-2-② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性

カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識、技能を修得できるように、教育内容、教育方法、教育評価についての実施方針を策定していることから、両者の一貫性は担保されている。

また、次年度からの新カリキュラム導入に際しカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの関連をより体系的に明示することをめざし科目ナンバーの設定をおこなった。これは次年度よりスタディガイド並びにシラバスに明示される。

なお、心理学科では各専攻単位で DP の見直しを実施しており、ナンバリングが効果的に機能するよう、カリキュラムツリー及びカリキュラムマップを再検討した。

3-2-③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成

本学は、カリキュラム・ポリシーの方針に従って初年次教育、教養教育、専門教育で必要とされる科目を体系的に年次配当及び編成をしている。さらに、カリキュラムが体系化されていることを示すため、科目分類、科目のレベル、授業形態等を表すナンバリングを新たに検討し、次年度よりシラバスに明示する予定である。

また、全授業科目で様式を統一した WEB シラバスを作成し、授業の目的及び概要、講義方法、授業計画、到達目標、成績評価基準、テキスト・参考文献、事前事後学習について記載している。シラバス作成は「シラバス作成要領」に沿って行われ、到達目標作成されたシラバスは各学科教務部教員及び全学共通教育部員によってチェックされ、必要に応じて修正等をした後に WEB で公開している。

さらに、本学では GPA によるキャップ制を導入し、履修上限単位数を設定している。また、シラバスには毎回の授業の事前事後学習の時間数の目安と具体的な内容を明示し、学修時間の確保に努めている。

なお本学では、「初年次教育科目」「教養教育科目」「言語情報教育科目」「キャリア教育科目」「体験教育科目」「留学生教育科目」の科目群を全学共通教育科目という大きな科目群として配置している。この大きな科目群全体を本学では一般的な意味での教養教育と位置づけており、「広義的な教養」という意味をもつことから全学共通教育科目と称している。さらに令和 4(2022)年度からの新カリキュラム移行にともない、全学共通教育を「初年次教育科目」「教養教育科目」「地域・国際教育科目」「言語・情報教育科目」「キャリア教育科目」「留学生教育科目」に再編することになっている。

1) 初年次教育

初年次教育は大学で学ぶための基盤となる教育課程として位置づけられる。令和 2 年度に全世界を襲ったコロナ禍は、小康化しつつあるものの令和 3 年度も引き続き大学教育に大きな影響を与えた。そのようななか、なし崩し的に実現した遠隔授業や、本年度導入した LMS(Learning Management System)の manaba など多様な情報ツールを活用する力及び能動的に学び続ける力を身に付けることができるよう、「学びの技法Ⅰ」「学びの技法Ⅱ」「情報機器操作」「日本語表現Ⅰ」「日本語表現Ⅱ」を全学共通

教育科目として配置し、科目間の連携を図りながら展開している。

令和4年度からはこれらをさらに進展させ、「基礎ゼミⅠ」「基礎ゼミⅡ」「学生と社会」といった初年次教育科目を新たに設置し、学びの深化につなげることをめざしている。

2) 教養教育

本学では、「初年次教育科目」「教養教育科目」「地域・国際教育科目」「言語・情報教育科目」「キャリア教育科目」「留学生教育科目」の5つの科目領域を包括的にとらえた科目群を「全学共通教育科目」と呼称し、一般的な教養教育よりも幅広い科目概念として位置付けている。

初年次教育科目では、上述の1)の内容を設定し、教養教育科目では、学生に幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するため、人文、社会、芸術・スポーツ分野を中心とした科目を設定している。地域・国際教育科目では北海道に位置する大学という特色を生かし「地域学」「北海道学」「地域アクティビティ」を、そしてグローバル社会で必要な知識を学ぶ「多文化共生論」「海外研修」等の科目を配置している。

また、言語・情報教育科目の、必修科目「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」では、通常の講義に加え授業の一部でフィリピン在住の英語講師とオンラインでつなぎ、授業で学んだスキルをマンツーマンに近い形で実際に会話として試すことができる環境も提供している。

加えて、キャリア教育科目では、卒業後社会で自立するために必要な社会人基礎力を身に付けるために、「キャリア形成論」「キャリアデザイン」「インターンシップ」などの科目を配置している。

さらに留学生には、語学レベルに応じた日本語科目や生活様式を学ぶ科目を外国人向けにカスタマイズされた教養教育として配置している。

3) 専門教育

[大学]

専門教育は学部学科の教育目的に沿って授業科目が配置されている。加えて、本学は資格、免許状の取得を奨励しており、それに対応した授業科目を教育課程に反映している。

◇人文学部国際教養学科

学部共通科目、学科基礎科目、学科専門科目(国際・産業社会、言語、文化・地域、コミュニケーション、学芸員)で構成されている。基本的に、言語・文化・コミュニケーションをキーワードに、コミュニケーション能力を高め、他者の歴史・文化・宗教・習慣に対する理解を深めるための授業科目が配置されている。特に、資格取得に関しては博物館考古学系授業科目等の配置により学芸員、2級考古調査士の資格取得希望学生に対応した科目を配置している。

◇人文学部心理学科臨床心理専攻

学部共通科目、学科基礎科目、臨床心理専攻専門科目で構成されている。基本的に心理学の基礎理論と臨床心理学的援助に関する授業科目が配置されている。特に、公

認心理師資格に関する授業科目が設定されている点が特色である。なお、大学院心理学研究科臨床心理専攻への進学を希望する学生もいるため、臨床心理学的援助に関する授業科目も配置している。

◇人文学部心理学科子ども心理専攻

学部共通科目、学科基礎科目、子ども心理専攻専門科目で構成されている。基本的に心理学の基礎理論と幼児教育・保育の知識と技能習得に関する授業科目が配置されている。なお、幼稚園教諭一種免許状、保育士資格等の取得に必要な科目も配置されている。

◇観光学部観光ビジネス学科

観光学部基幹科目、観光学部専門科目で構成されている。基本的に観光学の基礎理論、観光ビジネスに関する授業科目が配置されている。特に、ホテル、航空、旅行など観光関連産業に関する授業科目が多く配置されている。

◇スポーツ人間学部スポーツビジネス学科

学部共通科目、学科専門科目で構成されている。基本的にスポーツビジネスの基礎理論、スポーツ経営に関する授業科目が配置されている。特に、プロスポーツ、健康産業に関連した授業科目が多く配置されている。

◇スポーツ人間学部スポーツ指導学科

学部共通科目、学科専門科目で構成されている。基本的にスポーツ科学の基礎理論、運動生理学、トレーニング科学、保健に関する授業科目が配置されている。また、中学校教諭一種(保健体育)免許状及び高等学校教諭一種(保健体育)免許状の取得に関連した授業科目も配置されている。なお、同学科においてはスポーツ関連の資格取得を推奨しているため、資格取得関連の授業科目も多く配置されている。

[大学院]

三つの研究科を有する本学においては学部学科を基礎とする大学院教育を行っている。研究科の目的によって教育課程編成は異なるが、他大学、社会人、外国人留学生に門戸を開き、幅広い入学者を受け入れている。

◇観光学研究科観光学専攻修士課程

教育課程は必修科目、選択科目から構成されている。基本的に観光学の理論と関連方法論、応用領域科目が配置されているが、観光産業・事業、観光文化、観光振興領域をカバーしている点が特色である。

◇心理学研究科臨床心理専攻修士課程

教育課程は講義科目、演習科目、実習科目、課題研究から構成されている。基本的に臨床心理学の理論と関連方法論、臨床心理実習に関する授業科目が配置されている。特に、臨床心理実務技能に関しては公認心理師及び日本臨床心理士資格認定協会第1種指定校として必要な授業科目、学修環境を整えている点が特色である。

◇スポーツ健康指導研究科スポーツ健康指導専攻修士課程

教育課程はスポーツ健康基本科目、スポーツ健康指導科目、研究指導演習科目から構成されている。基本的にスポーツ科学の理論と関連方法論、健康社会領域、スポーツ健康指導領域の科目が配置されているが、高齢者、ジュニア層を対象にした授業科

目を配置している点及び学生、教員、地域の人々が関与する教育が特色である。なお、中学校教諭専修免許状(保健体育)、高等学校教諭専修免許状(保健体育)の取得が可能である。

3-2-④ 教養教育の実施

本学の教養教育は、「初年次教育科目」「教養教育科目」「地域・国際教育科目」「言語・情報教育科目」「キャリア教育科目」「留学生教育科目」で構成されており、それぞれの科目群の有機的な連携によって教養教育を形成している。このような教養教育の設計となった背景には、これまでの本学の教養教育は学科によって学修内容に違いがあり、学修成果が学生によって大きく異なるという問題点を抱えていたという実態がある。そこで全学共通教育部を令和 3(2021)年度に発足させ、初年次教育の内容の統一実施、PC スキルの向上、学生交流の場、自由に学修できるコモンズ(自習室)の設置、学生が学生をサポートするライティングラボ、キャリア教育シラバスの統一、学修成果の可視化として全学 3 年ゼミの報告集を発行するなど、教養教育のコンテンツや施設の整備につながる成果を残してきた。

本学の教養教育の授業運営や各種調整は教務部と連携して全学共通教育部が担当している。全学共通教育部には「初年次教育部門」「教養教育部門」「情報教育部門」「外国語教育部門」「キャリア教育部門」「留学生日本語部門」の 6 部門があり、月 1 回の定例部会を開催し、それぞれが社会のニーズ等を踏まえながら定期的に授業内容や授業方法等の点検を行っている。

入学時のオリエンテーション期間までに、日本語と英語の外部アセスメントテストを実施し、1 年次必修科目の日本語表現科目と英語科目のプレースメントを実施している。日本語のプレースメントテストでは一定レベル以下の学生用の入門クラスを少人数で 5 クラス展開し、よりきめの細かい教育支援を行っている。英語のプレースメントテストでは、全学科横断でレベルによるクラス分けを行い、レベルにあった内容で展開している。

3-2-⑤ 教授方法の工夫・開発と効果的な実施

1) アクティブ・ラーニングを重視した学習方法

本学では、教員による一方向の授業だけではなく、学生自身が主体的・対話的に深い学びを実現できるよう、各授業で PBL(Problem Based Learning)、グループワーク、フィールドワーク等のアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、授業公開している。加えて、そのための教育環境充実のためアクティブ・ラーニングルームを整備している。

2) 授業改善に向けた組織的な研修の実施

FD 委員会により年数回の全教員向けの研修会を実施し、効果的な授業の実施を目指して組織的に教授方法の工夫と開発に取り組んでいる。また、ICT の活用方法など希望者のみを対象とした小規模の FD も開催し、授業運営の改善を目指している。

複数教員で同一科目を担当する場合は、担当者による打合せを適宜実施し、授業の

運営方法の確認や改善点などについて点検を行っている。

3) LMS を利用した教育方法と多様な授業形態

本学では LMS として manaba を利用し、科目毎のコースで予習、復習、小テスト、レポートを実施している。授業で使用する資料などもコース内に保存して学生が何度も振り返りに活用できる体制ができている。

また、コロナ禍で Zoom を活用した同時双方向型授業、オンデマンド型授業を実施してきたが、その後も効果的だと判断される授業科目の一部で導入し、学生の理解度を深めるために活用している。

(3) 3-2 の改善・向上方策(将来計画)

本学では大学と大学院で教育目的を踏まえたカリキュラム・ポリシーを設定しているが、表記の様式については大学と大学院で異なるため、大学院の様式を大学の様式に合わせていく。また、教授方法の工夫及び各学科の特色ある教育活動をさらに活発にするために、クォーター制と 105 分授業の導入の効果及びその可否について情報収集を進める。

さらに、令和 4(2022)年度は、新カリキュラム開始の年となるため、想定外の問題も生じることが予想される。その都度善処していくが、問題の原因が何であったかを明確にし、同様の問題が今後生じないような自己点検・評価へとつなげていく。

3-3. 学修成果の点検・評価

3-3-① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用

3-3-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック

(1) 3-3 の自己判定

基準項目 3-3 を満たしている。

(2) 3-3 の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

3-3-① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用

本学では、IR 室が各種アセスメントテスト等の分析と報告を行い、そのデータを基に教学マネジメント推進委員会が三つのポリシーの点検、評価及び改善の提言を行っている。

1) 各学科による三つのポリシーの点検

各学科にて年度毎に三つのポリシー、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーが正しく運用されているか、改善するべき点がないかなど、「カリキュラム/3 ポリシー等点検シート」を用いて行っている。

2) 外部アセスメントテストの活用

学士課程教育の質保証に向け、令和 4(2022)年度から「GPS-Academic」を導入し、学生の「思考力」、「姿勢・態度」、「経験」という 3 つの点で問題を解決する能力を測

定する予定である。本学ではこのアセスメントテストを入学時の学生個々の状況と本学における学修効果を把握するため、入学時と3年次に実施し、その結果については、WEB学生カルテ内に保存し、学生との定期面談時の資料とするとともに、カリキュラムの見直しや教育方法の改善にも活用していく。

3) 学修ポートフォリオ

本学では半年に一度、前学期の学修成果について学生自身が学修ポートフォリオの様式を用いて自己評価と振り返りを行う取組みを令和4(2022)年度から試験的に導入する。このポートフォリオは学生がアドバイザー教員と面談を行う際の基礎資料となるほか、学生自身が学修成果の達成状況の確認とその後の課題等を明確にすることを目的にしているが、学科間で様式や運用方法の違いがあり、まだ試行段階である。

4) 単位修得状況の点検・評価

学生の単位修得状況は、各学期終了後に主に成績不振学生を抽出し、定期的な面談を行い個々に合った学修支援を実施している。学生の学修状況は学科で共有され、多面的な支援を実施している。

3-3-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック

◇授業評価アンケート

本学では、全教員(非常勤講師含む)の全科目を対象にして「授業評価アンケート」を継続的に実施している。このアンケートから、学生から見た授業内容、授業方法等についての意見及び科目の履修動機や授業参加態度を把握し、授業改善に役立てている。

アンケート結果は担当教員に開示し、授業等の改善点等のフィードバックコメントをLMSであるmanaba上に入力した上で、授業評価アンケート結果として学生に公表している。

(3)3-3の改善・向上方策(将来計画)

IR室と連携し、GP分布、学修動向調査、学位授与率、就職率などのアセスメント・ポリシーを制定し、より機能的な点検・評価ができる体制を検討中である。

また、併せて現在活用している学修ポートフォリオについて学科間の様式や運用方法の違いを是正し、学修状況の把握とよりきめ細やかなフィードバックができるシステムを構築する。

新型コロナウイルス感染症で培われた遠隔授業のノウハウを今度も活用し、「カリキュラムと授業実態に関する学生調査」から判明した、学生が求める多様な授業形態での学修の一助としていく。

[基準3の自己評価]

本学は『建学の礎』『教育の基本的考え方』に基づき、ディプロマ・ポリシーからアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに至るまで一貫性のあるポリシー

を策定している。

教育課程については令和 4(2022)年度より開始される新カリキュラムが円滑に実施されることに傾注する。また、カリキュラム・ポリシーに沿って教養教育、専門教育がともにバランス良くかつ体系的に編成され、授業成果として現れているかについてもこれまでの授業評価アンケートとは別に実施する。

教授方法の改善については、FD 等を通してアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ学生の理解と満足度が向上するように継続的にデータを蓄積しており、授業評価アンケート等の各アセスメント結果から教育課程、教授方法、学修指導の改善を行っている。

以上の理由により、本学は基準 3「教育課程」を満たしていると判断する。